

古河電工産業電線

配電盤向け 今期販売1割増目指す

高付加価値「機能線」相次ぎ投入

古河電工産業電線（本社・東京都荒川区、社長・松本康一郎氏）は新製品の投入を加速し2017年度、注力分野である配電盤関連の売上高を1割拡大させる。4月から新たに6600Vの高圧電流に対応しながら柔軟性に優れるKIPを発売。さらに6月には低圧電線でコスト競争力が高いEMICⅡ写真Ⅰの販売を始める。現在、配電盤向けには機能線事業の主力製品であるLMFCを拡販。より幅広い製品を供給できる体制を整える。

同社では建設用電線とする汎用線と、配電で事業を展開。高付加価値の強化を進めている。主要3品種（IV・盤用や太陽光発電用電線）を構成する。配電盤向け製品群（CV・CVV）を中心に線など機能線の2本柱。成比率を高めながら収束の強化はその一環とし

ての取り組み。市場で強みを持つ主力製品のLMFC（可とう性難燃ポリエチレンケーブル）に加えて、低圧と高圧それぞれに対応した新製品を新たに投入し提案の幅を広げる。松本社長は「3つの品種を総合的に提案する

体制を整えることで販売の効率化に加えて、顧客の利便性を高めることができる」と話す。KIP（高圧機器内配線用EPゴム絶縁電線）は施工性の高さが

などを工夫して柔軟性を高めている。また外被と導体の間に入る紙テープなどのセパレーターを省略した設計も特長。外被をむく際にセパレーターを取り除く手間を省いている。

EMIC（耐燃性架橋ポリエチレン絶縁電線）は耐熱性の高いエ



コ電線で、製造プロセスの効率化で価格競争力を高めた製品。現在使われているHIVや

EMIEからの代替を目指していく。

